準備　第1章

お使いになる前に

付属品の確認

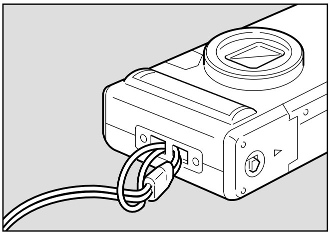
次のものが揃っているかお確かめください。また、保証書は内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

・デジタルカメラ（本体）............................ 1台
・ビデオ接続ケーブル 1本
・本体専用ソフトケース 1個
・単3形アルカリ乾電池 4本
・ハンドストラップ 1本
・使用説明書（本書）.................................... 1冊
・簡易説明書 1枚
・保証書／ご愛用者登録カード 1枚

ストラップの取り付けかた

カメラを落とさないように、付属のハンドストラップをカメラに取り付けて使用してください。

❶ ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。



重要

・カメラ本体を振り回すような持ち方はしないでください。

電源について

ここでは、単３形乾電池のセットについて説明します。また、家庭用コンセントを使用して電源をとる場合の接続方法についても説明しています。

乾電池のセット

単３形乾電池をセットして、カメラを操作します。

補足 ・市販の電池をお使いになるときは、充電式の単３形電池（ニカド電池、ニッケル水素電池）のご使用をお勧めします。

⚠警告

●電池の液漏れ、発熱、発火、破裂の防止のため、次のことをお守りください。
- **この製品で指定している電池以外は、使用しないでください。**
- **電池は、火の中に入れたり、ショート、分解、加熱、充電しないでください。**
- **形式・銘柄の異なる電池、メーカーの異なる電池、古い電池と新しい電池など、電池を混用しないでください。**
- **電池の＋極と－極の向きを正しくセットしてください。**
- **電池をハンダ付けしないでください。**

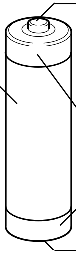
●充電可能な電池をお使いになるときは、他の充電式電池との混用や充電状態の異なる電池との混用はしないでください。

●この製品で使用している電池を誤って飲み込むことがないよう、特に幼児・子供の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、人体に有害です。直ちに医師と相談してください。

1 準備

次のような状態の電池は液漏れ、発熱、発火、破裂、ショートの原因となりますので、絶対に使用しないでください。

●マイナス（ー）極周辺が絶縁されていない電池は、絶対に使用しないでください。



●外装チューブの破れた電池、外装チューブのはがれた電池は、絶対に使用しないでください。

⚠注意

●電池から漏れた液が肌に触れると、火傷の原因になります。破損した電池に触れた場合は、すぐに水で洗い流してください。（せっけんは使用しないでください）
また、液漏れが起こったときは、液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

充電可能な電池について

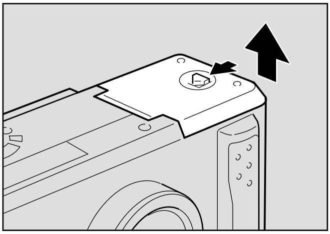
・市販の単３形ニカド電池や単３形ニッケル水素電池をお使いになるときは、各製品に付属の説明書の「安全上のご注意」を操作の前に必ずお読みください。

重要

・指定の単3形の電池をお使いください。電池は、P.126の電源の「電池種類」をご確認のうえ、ご購入・ご使用ください。
・マンガン乾電池など､指定以外の電池を使用すると本体や液晶モニターが故障や破壊するおそれがあります。使用しないでください。
・連続して長時間ご使用になると､電池の種類によって電池が熱くなることがあります。しばらくしてから電池を取り出してください。
・市販の電池で、特定機器専用タイプのもの（例えば「CDプレーヤー専用」などと記載されたもの）は、本機で使用しないでください。
・電池をお買い求めになる際には､電池の説明書をよくお読みになって、本機で使用可能な電池かどうか、必ずご確認ください。
・長時間お使いにならないときは、電池を取り出してください。

❶ カメラの電源が切れていることを確認してから、つまみをスライドさせながら電池ぶたを開けます。

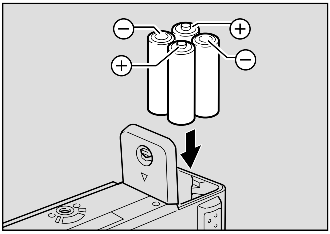
参照 P.41「電源を入れる」



❷ 電池をセットします。

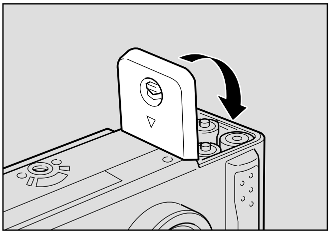
重要

・電池の極性（＋極、－極）の向きを間違えないように気をつけてください。
・電池との接触面や電気的接続片に金属針のようなもので触れないようにしてください。静電気破壊をおこすことがあります。



❸ 電池ぶたを閉じます。

電池ぶたは、カチッと音がするまでしっかり閉じてください。



■経済的な電池の利用方法

通常のご使用では、繰り返し使える充電式の単３形ニカド電池もしくは単３形ニッケル水素電池のご使用をお勧めします。
また、電源がお近くにあり長時間ご利用の場合は、ACアダプター（別売り）をご使用くださるとより便利にお使いいただけます。
また、液晶モニターの画面表示をOFFにして撮影していただくと、さらに電池寿命を長くしてご使用いただけます。

●撮影・再生の目安

単３アルカリ乾電池を使用した場合の、撮影時と再生時の使用可能時間の目安は、次の測定条件において、次ページの表のとおりです。

［測定条件］

撮影時：電源ON状態で記録モード連続撮影
（途中の電源OFFなし、30秒間隔で撮影/フラッシュ発光50%、測定温度：25℃）

再生時：電源ON状態で再生モードにて連続放置、測定温度：25℃

電池の種類	撮影時間の目安	再生時間の目安
単３形アルカリ乾電池	約60分	約90分
ニカド電池（1000mAhの場合）	約40分	約60分

＝ 撮影・再生時間をのばすための豆知識 ＝

＊使用環境温度により上記数値が減る傾向にあります。
低温時は、電池を手で暖めるなどしてご使用されると撮影枚数が多くなります。
また、温度が低い場所には低温による影響の少ない充電式のニカド電池のご使用をお勧めします。
＊充電式電池はできるだけ容量の多いものをご使用ください。
（電池容量は○○○○mAhというように表示されています。）
＊フラッシュ、ズーム操作や液晶モニターを多用すると電池が早く消耗しますので、必要以上の操作はお避けください。
＊画質モード900×600で撮影される場合は、撮影枚数が増える傾向にあります。
＊画像のコピーや消去などの操作を繰り返すと電池が早く消耗します。
＊ご使用になる電池の端子部分と本体の電池との接触部分を、乾いた布などできれいにふくと、電池寿命が長くなることがあります。

補足
・電池だけでご使用になるときは、予備の電池を用意してください。
・電池マーク（ ）の点灯は、電池の消耗を表しています。予備の電池を用意してください。
（充電式の単３形ニカド電池や単３形ニッケル水素電池は、電池の特性上この電池マークが点灯すると、すぐに電源が切れます。）
・電池残量の少なくなった電池（一度、 が点滅したなど）は、ご使用にならないでください。カメラ本体が誤動作（液晶モニターやオートフォーカスランプ/フラッシュランプ、セルフタイマーランプの点滅、または点灯）を起こす場合があります。

■使用上のご注意

・破損している電池や寿命になっている電池は使用しないでください。
・強い衝撃を与えないでください。

コンセントで使う

撮影・再生で長時間ご使用になるときは、ACアダプター（別売り）を接続して家庭用コンセントでお使いください。

⚠警告

● 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。

● 家庭用コンセントをご利用になるときは、必ず専用のＡＣアダプター（型名：AC-3< 別売り >）をご利用ください。指定以外のAC アダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。

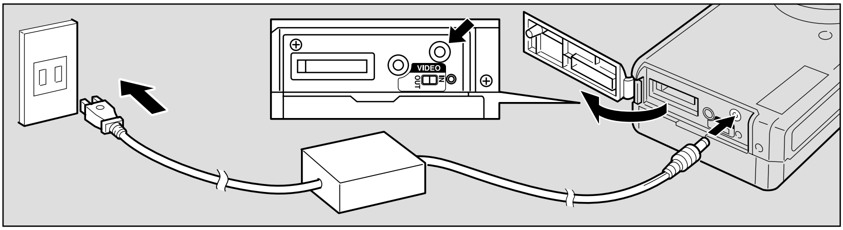
● 海外旅行者用として市販されている「電子式変圧器」などにＡＣアダプターを接続しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

⚠注意

● 電源プラグは、コンセントに確実に差し込んでください。火災の原因となります。

AC アダプターについて

ACアダプターに付属の取扱説明書、「安全上のご注意」を操作の前に必ずお読みください。



❶ カメラの電源が切れていることを確認してから、端子カバーを開きます。

参照 P.41「電源を入れる」

❷ ACアダプターの接続ケーブルを、カメラの電源（DC入力）端子に接続します。

❸ コンセントに電源プラグを差し込みます。

補足 ・カメラ本体に電池がセットされている場合、家庭用コンセント（ACアダプター側）からの電源を優先して供給します。

重要
・電源プラグおよび接続ケーブルは、しっかり差し込んでください。記録中にプラグやケーブルが外れると、データが破壊されることがあります。
・カメラを操作中（記録・再生・消去など）にACアダプターを接続したり、取り外したりすると、電源の供給先がかわるため一度電源が切れます。そのためデータが破壊されることがありますので、カメラの電源を切った状態でACアダプターを接続または取り外してください。

スマートメディアについて

スマートメディア（メモリーカード）の種類や使いかたについて説明しています。

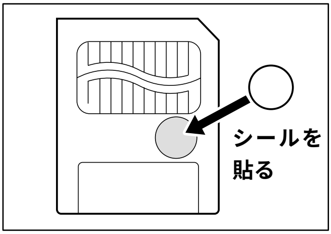
スマートメディアについて

ファイルは、スマートメディアにデータとして記録されます。
次のものを使用できます。
・容量 2MB、4MB、8MB、16MB、32MB、64MB
・動作電圧　3.3V

補足
・スマートメディアには様々な種類があります。市販の製品をお使いになるときは、スマートメディアのメーカーに必ずご確認ください。
・スマートメディアは、PCカードアダプター（別売り）やフロッピーディスクアダプター（別売り）を使うと、パソコンのPCカードスロットまたはフロッピーディスクドライブに直接セットできます。

■誤記録防止について

記録したファイルを間違えて消してしまわないよう、スマートメディアにライトプロテクトシールを貼ってください。ライトプロテクトシールを貼ると、記録や消去ができなくなります。
記録や消去を行うときは、ライトプロテクトシールをはがしてご使用ください。



補足
・ライトプロテクトシールが汚れたときは、乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。

■使用上のご注意

●スマートメディアについて

・記録中や消去中は、スマートメディアを取り出さないでください。
・スマートメディアを曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
・静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用・保管はさけてください。
・高温多湿の場所、ホコリの多い場所、または腐食性のある環境下でのご使用、保管はさけてください。
・スマートメディアの接触面にごみや異物がつかないようにしてください。汚れは、乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。

・スマートメディアのカード挿入口にごみや異物を入れないようにしてください。
・危険なので、スマートメディアを火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。
・スマートメディアには寿命があります。長期間ご使用になると、新しく記録ができなくなることがあります。

●データについて

・お客様または第三者がスマートメディアの使いかたを誤ったり、スマートメディアが静電気や電気的ノイズの影響を受けたり、故障や修理のときに記録したデータが消滅することがあります。記録したデータの消滅による損害について、当社は一切責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
・スマートメディアへ記録中に電池を取り外したり、電源を切ったり、ACアダプターを接続したりしないでください。スマートメディア内のデータが破壊されることがあります。
・大切なデータは、他のメディア（フロッピーディスク、ハードディスクなど）にコピーしておくことをお勧めします。

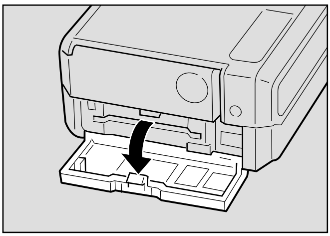
スマートメディアのセット

カメラの電源が切れていることを確認してから、スマートメディアをセットします。

重要
・スマートメディアを抜き差しするときは、必ず電源スイッチをスライドさせて電源を切ってからおこなってください。スマートメディア内のデータが破壊されたり、カメラ本体の誤動作を起こす場合があります。

■セットする

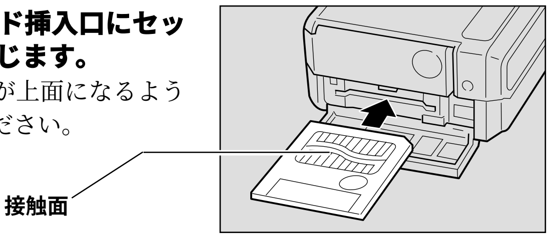
❶ カメラの電源が切れていることを確認してから、カードカバーを開きます。



参照 P.41「電源を入れる」

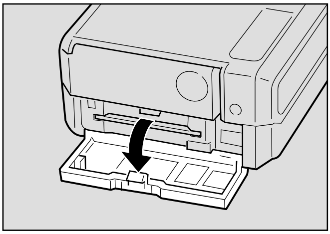
❷ スマートメディアをカード挿入口にセットし、カードカバーを閉じます。

スマートメディアの接触面が上面になるように、しっかり押し込んでください。



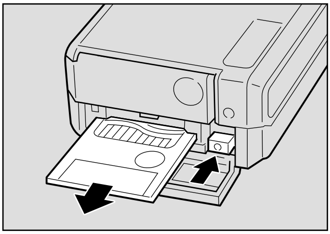
補足 ・スマートメディアをセットするときは向きを間違えないようにしてください。また、スマートメディアは斜めに挿入しないでください。
・カードカバーが開いているときは、電源が入りません。

■取り出す



❶ **カメラの電源が切れていることを確認してから、カードカバーを開きます。**

参照 P.41「電源を入れる」



❷ **ボタンを押し、スマートメディアをまっすぐ引き出すようにして取り出します。**

ボタンを押すと、スマートメディアが少し飛び出します。そのまままっすぐ取り出してください。

❸ **カードカバーを閉じます。**

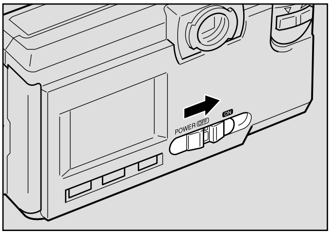
重要
・記録中や消去中にスマートメディアを取り出さないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。
・取り出したスマートメディアは、必ずカードに付属の静電気防止ケースや収納ケースに入れてください。

スマートメディアのフォーマット

新しいスマートメディアをお使いになるとき、または他の機器（パソコンなど）で使用していたスマートメディアをお使いになるときには、カメラでスマートメディアをフォーマット（初期化）することが必要です。

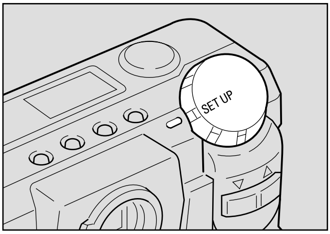
重要
・スマートメディアをフォーマットすると、スマートメディア内に記憶されているすべてのファイルが消去されます（プロテクトされたファイルも消去されます）。
・スマートメディアの初期化は、パソコンでは行わないでください。
・他の機器でフォーマットしたスマートメディアは、使用できないことがあります。

❶ **スマートメディアをセットし、電源スイッチの中央のボタンを押しながら、電源スイッチをスライドします。**



参照 P.32「スマートメディアのセット」
P.41「電源を入れる」

❷ **モードダイヤルを［SETUP］に合わせます。**
SET UP メニューが表示されます。



❸ **▼ボタンや▲ボタンを押して［フォーマット］を選び、ENTER ボタンを押します。**



❹ **▼ボタンや▲ボタンを押して［カード］を選び、ENTER ボタンを押します。**



❺ **レリーズボタンを押します。**
「フォーマット中」とメッセージが表示され、スマートメディアがフォーマットされます。

フォーマットが終了すると、SET UP メニューに戻ります。モードダイヤルを回して他のモードに切り替えます。



補足 ・スマートメディアにライトプロテクトシールを貼っている場合、フォーマットできません。ライトプロテクトシールをはがしてから操作してください。

撮影の前に

実際に操作する前に、調整していただきたいことや知っておいていただきたいことについて説明しています。

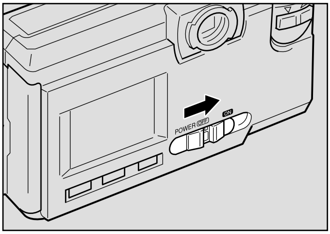
日付・時刻を合わせる

セットした日付や時刻を撮影時に記録します。最初にお使いになるときや海外で撮影するときなど、日付や時刻を修正するときにお使いください。

補足
・年は西暦で入力します。
・時刻は24時間表示です。00:00は真夜中を、12:00は正午を表します。

❶ 電源スイッチの中央のボタンを押しながら、電源スイッチをスライドします。

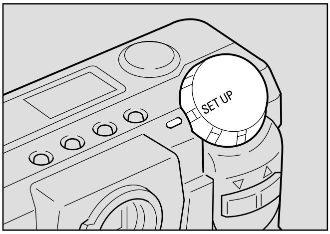
参照 P.41「電源を入れる」



❷ モードダイヤルを［SETUP］に合わせます。

SET UPメニューが表示されます。

補足
・操作を取り消すときは、モードダイヤルを回します。

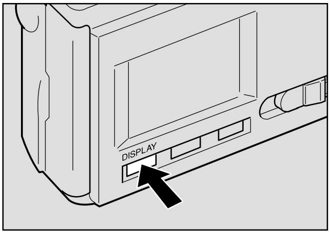


❸ ▼ボタンや▲ボタンを押して［日付］を選びます。



❹ DISPLAYボタンを押して、日付の表示方法を選びます。

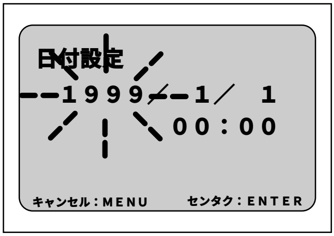
日付の表示方法には、次の3種類あります。
1999/9/15 → Sep 15 1999 → 15 Sep 1999
DISPLAYボタンを押すごとに、順に表示が切り替わります。表示方法を選択してください。



❺ ENTERボタンを押します。
日付設定メニューが表示されます。

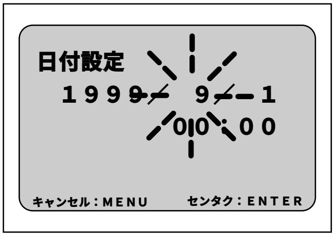
補足 ・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。SET UPメニューに戻ります。

❻ ▼ボタンや▲ボタンを押して、点滅している数字を変更します。
▲（[♠]）ボタンを押すと数字が進み、▼（[♠]）ボタンを押すと数字が戻ります。ボタンを押し続けると早く動きます。

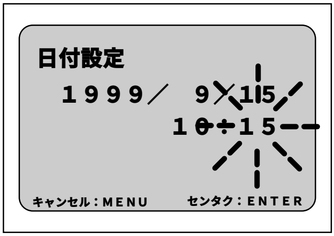


❼ ENTERボタンを押して、修正したい部分を点滅させます。
手順❻、❼の操作を繰り返して、必要な部分を修正します。

補足 ・ENTERボタンを押すごとに、年から月→日→時→分の順番で点滅します。
・操作の途中でMENUボタンを押すと、設定を取り消すことができます。



❽ 分を合わせたあと、もう一度ENTERボタンを押します。
時計が動きはじめ、SET UPメニューに戻ります。モードダイヤルを回して他のモードに切り替えます。



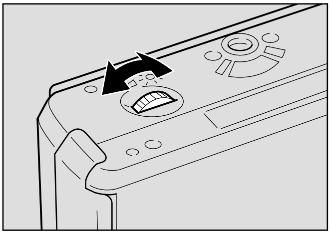
補足 ・時報と同時にENTERボタンを押すと、正確に時間合わせができます。
・電池の交換などで乾電池を取り出してから約３分経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。

コラム
日付・時刻を確認するには
セットした日付や時刻は、ENTERボタンを押すと液晶モニターに表示されます。→P.50「画面表示機能について」

液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターの明るさを調整します。

❶ 輝度調整つまみを左右にまわして、見やすい明るさに調整します。

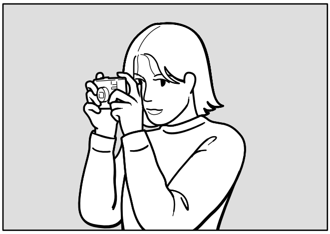


カメラの構えかた

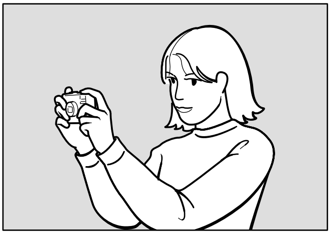
撮影のときにカメラが動いてしまうことを「カメラブレ」といいます。カメラブレの映像は、画像全体がブレてしまいシャープに写ったところがありません。カメラが動かないように正しく構えてください。特に望遠時には、カメラブレにご注意ください。

❶ カメラを両手でしっかり持ち、ひじは軽く体につけます。

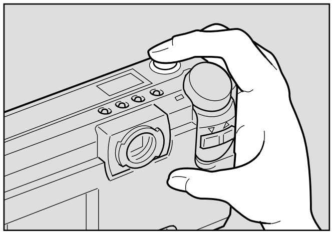
●ファインダーをのぞいて撮影する
カメラを軽く顔に押しつけるように固定し、撮影したいものにカメラを向けてファインダーをのぞきます。



●液晶モニターを見ながら撮影する
カメラを両手でしっかり持ち、撮影したいものにカメラを向けて液晶モニターを見ます。



❷ レリーズボタンに指の腹が軽く触れるようにします。



重要

- レリーズボタンから指を離しておいて、撮影のときに一気にレリーズボタンを押し込むとカメラブレの原因になります。

補足

- 縦位置に構えて撮影した被写体を再生すると、被写体は横向きに表示されます。

カメラのレンズやフラッシュ発光部、フラッシュセンサー受光窓などに指や髪、ストラップなどがかからないように注意してください。

